ホウ素中性子捕捉療法の獣医学分野への適応拡大に向けて

 -取り組むべき課題と異分野融合研究の可能性-

シンポジウム開催のご案内 (2020年3月14日)

京都大学複合原子力科学研究所・粒子線腫瘍学研究センター長 鈴木 実

大阪府立大学・獣医臨床センター長 嶋田 照雅

獣医学分野で診療、基礎研究に携わってきた先生方、獣医学分野の行政に携わってきた先生方に本シンポジウムへのご参加、ご協力を賜りたく存じます。

ホウ素中性子捕捉療法（Boron Neutron Capture Therapy, 以下 BNCT）は、放射線治療の 1つであります。原理的には細胞レベルの治療選択性を有する療法です。研究用原子炉からの中性子を利用して、悪性脳腫瘍、難治性頭頸部腫瘍、悪性皮膚黒色腫等の通常の X 線に抵抗性の腫瘍や、多発性肝腫瘍、中皮腫等の他の放射線・粒子線治療では狙いにくい腫瘍を対象として臨床研究を実施してきました。

中性子という特殊な放射線を使用することから、ヒトの放射線治療の分野でも特殊な医療という位置付けでありました。近年、病院併設が可能なコンパクトな加速器中性子源を用いた照射システムの開発に成功し、すでに複数の医療機関にBNCT照射システムが導入され、治験が実施されており、来年度中には承認医療としてBNCTが医療機関で実施されることが期待されています。

 BNCTで使用する中性子線は体深部に十分量が到達しない点から、現時点において、BNCTの適応は体表から浅い位置の悪性腫瘍に限られております。一方、イヌ、ネコなどの伴侶動物の大きさであれば、その適応は、どの部位の悪性腫瘍においても十分な中性子量を投与することが可能であります。また、腫瘍細胞と正常組織細胞の間に､細胞レベルで投与する線量に大きな差を付けることが可能であることから、原則、1日1回の照射で治療が終了となります。また、重粒子線治療にBNCTは分類されることから、伴侶動物の悪性腫瘍で多いとされる肉腫に対しての治療効果が期待できます。

病院に併設可能な小型加速器BNCT照射システムを用いた伴侶動物に対するBNCTの適応への可能性についての諸課題について、併せてヒトの放射線腫瘍学と獣医学分野における双方向性の学術的な異分野融合研究の可能性について、議論頂きたく、多くの獣医学分野の先生方に本シンポジウムにご参加をお願い致します

https://www.rri.kyoto-u.ac.jp/events/13065

\*\*\*\*\*\*\*

タイトル ホウ素中性子捕捉療法の獣医学分野への適応拡大に向けて

 -取り組むべき課題と異分野融合研究の可能性-

日時 2020年3月14日（土曜日）9：50~17：00

会場 インテックス大阪国際会議ホール

 　 大阪市住之江区南港北1丁目

主催 京都大学 複合原子力科学研究所

共催 大阪府立大学・獣医臨床センター

 ホウ素中性子捕捉療法（BNCT）推進協議会

 （事務局：大阪府、熊取町、京都大学、大阪医科大学）

参加費 無料

\*\*\*\*\*\*\*\*\*

【参加お申込み方法】

下記事務局メールへ 参加者される方の

ご所属、住所、職名、お名前をお知らせください。当日参加も可能です

\*\*\*\*\*\*\*\*\*

【ポスター発表ご参加のお願い】【アブストラクト締切~~2月7日,~~　2月14日に延長しています】

将来を担う研究者の交流場になればと思います

将来の研究者の交流目的も兼ねてご検討いただけますと幸いです。

研究者や学生さんの研究テーマのご紹介でも大歓迎です。

旅費のサポートもありますので添付にて下記URLの詳細をご覧の上

フォーマットを使用しての提出をお願い致します

<https://fsv.iimc.kyoto-u.ac.jp/public/R0mIgAsWag1AxD4B11lvijOsiwyhaYFYZ1vanooOLHes>

【問い合せ先】 獣医学BNCT推進プロジェクト事務局

 （京都大学 複合原子力科学研究所）

 TEL：072-451-2432 メール：bnct-office@rri.kyoto-u.ac.jp